

## 2022年 武蔵 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題が中心となります。2021年と比べると B3、B2、A3 が減り、B1 の出題が大きく増えています。前半で失点できない問題が多く見られたため、1問のミスは大きな差を生むと言えます。



大問 1 は、一行題です。(1)は、確実に得点しておきたい問題です。1~9 の素因数に注目することがポイントです。(2)は、手間がかかりそうに見えますが、「63」「84」「4956」が 21 の倍数になっている点に着目すると、「3」「4」「236」と置き換えることができます。封筒の合計枚数 70 枚とわかるので、つるかめ算の考え方が利用できます。(2)も得点しておきたい問題です。武蔵の平面図形は、例年高難度な問題でした。(1)で詰まってしまう、(2)以降に手がつかず、大きく失点したケースが多く見られました。しかし、今年度はハードルが一気に低くなりました。(1)は相似形がとらえやすい問題でした。(2)は全体から五角形 GECFH 以外の三角形を引くことで答えにたどり着くことができます。どちらも得点しておきたい問題です。

大問 3 は、おもりの組み合わせを調べる問題です。(1)はていねいに調べれば 3 通り全て求めることができます。確実に得点しておきたい問題です。(2)は、場合分けして調べるため、手間がかかります。差がついた問題と言えます。「9g だけ」「9g とおもり 1 つ」「9g とおもり 2 つ」の場合で調べれば、答えにたどり着くことができます。(3)は、(1)、(2)で求めた答えを活用する余事象を利用すれば調べる手間は省けました。この点に気づけるかどうかで差がつかれました。大問 4 は、図形上の点移動です。(1)は基本的な速さの問題です。確実に得点しておきたいです。(2)は、P、Q が 1 分あたり進む速さに注目することで、計算処理に持ちこむことができます。(3)は、少し複雑ですが、ダイヤグラムで状況を整理することで、点移動の様子が捉えやすくなります。(3)で差がついたと言えます。

平面図形のハードルが下がったため、大問 1、2 は確実に得点しておきたい問題でした。大問 3、4 で差がついたと考えられます。大問 3(2)でていねいに調べ、(3)で余事象に気づけたかどうか、大問 4(3)を落ち着いて取り組めたかがポイントです。あくまでも予想ですが、大問 3(2)、(3)、大問 4(3)が取れなかったとしても、およそ 7 割に達することができると考えられます。